

育児休業体験記

比嘉 清和さん



私は平成 21 年 1 月から 3 月までの 3 ヶ月間、育児休業を取得しました。

当時、私たち家族は名護に住んでいました。妻が復職するのに伴い、子どもを保育園に預けた場合の送迎が困難になるとの判断から、妻に代わって私が育児休業を取得することになりました。

育児休業を取得してからの最初の 2 週間は、家事と育児の両方をこなすのに大変でした。朝早く起きて食事の準備をしたり、育児の合間をぬって掃除・洗濯、子どもが寝たあとに食器洗いなど、睡眠時間も少なくなり、1 日中気の抜けない日々が続きましたが、娘や妻のためと思うと、不思議とつらくありませんでした。

育児休業を取得したおかげで、育児への考え方も大きく変わりました。これま

では妻の育児に協力している感覚だったのですが、我が子の成長を肌で感じる事ができ、育児の本当の楽しさを知る事ができたように思います。また、生活も自然と子ども中心に考えることが出来るようになりました。

近所のスーパーで食事の買い物をした時のことです。子どもをベビーカーに乗せていると、くるっと振りかえり、抱っこを求めてきました。抱っこをすると今度は降りて歩きたがりです。歩き出すと、興味のある商品が並んでいるコーナーへ行き、座り込んでしまいました。商品にさわってほしくなかったのも、すぐに抱き上げると、泣き喚くわが子を胸に、必死で買い物をし、逃げ出すようにスーパーを後にしました。

このことを妻に話すと、「自分の行動を優先させないで子どもの自由にさせて」と言われました。確かに、あの日の私は「買い物」という仕事をこなそうとしていました。子どものことを考えず、自分のペースで買い物をしていたのです。妻のアドバイスのおかげで、子どもの行動を優先し、買い物ができたらラッキーぐらいに考えるようになりました。このことがあってから、買い物をするときも、商品に興味をもつ子どもを見守ったり、声かけをして楽しむことができるようになりました。

近所の保育園が子育て支援広場を運営していることを知り、そこを活用できた

事で育休ライフの充実につながりました。私の子どもは音楽が好きなので、保育園で行っているリズム体操などに積極的に参加しました。また、様々なイベントやママさんとの情報交換なども、子どもの楽しみだけでなく私の息抜きになりました。

育休中にひとつだけ気になったのは、社会全体として子どもを預かってくれる場所が少なく感じたことです。名護に住んでいたため、周囲に親戚がいなくて、困るような場面もありました。例えば、育休中に私が病院へ行ったのですが、保育園で実施している一時保育が急な日程では受け入れが困難だったため、仕方なく子どもを抱えたまま通院しました。その時は、看護師さんが子どもの面倒を見てくれたため助かりました。病院・理容店・商業施設・役所など、子どもの面倒を見てくれたら助かる場所がたくさんある気がします。そうなれば、ママさんの外出の機会も増えると思います。

これまでに述べたことは、育児休業を取得しなければ考えることはなかったものばかりです。そのような意味でも、育休期間は、わたしにとってかけがえのない貴重な経験となりました。間違いなく、人生で最も充実した 3 ヶ月になったと思います。

